

所 報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第165号 令和3年2月10日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

（主な内容）

・ R3 年度学力向上策ヒアリング報告について

令和3年度学力向上策ヒアリングを終えて

江別市教育委員会 学校教育課指導主事

本年度の「学力向上策ヒアリング」を10月に実施しました。お忙しい中、校長先生、教頭先生はじめ主幹教諭や教務、研究等の担当の先生方の出席をいただきました。各学校の実態を踏まえた特色ある学力向上の取組について伺うことができ、誠に有難うございました。

江別市の令和3年度全国学力・学習状況調査の結果、江別市学校改善支援プランより課題改善策の一部抜粋、各小・中学校の学力向上の取組の一部を紹介させていただきます。

全国学力・学習状況調査の詳しい結果は、江別市教育委員会のホームページに掲載しています。

1 令和3年度 全国学力・学習状況調査の江別市の調査結果

〔平均正答率：単位（％）〕

	小 学 校		中 学 校		備 考
教 科	国語	算数	国語	数学	北海道及び江別市の正答率は、道教委、江別市教委が独自に算出した結果です。
江別市	66.8	71.2	64.3	57.8	
北海道	63.2	67.5	64.5	55.9	
全 国	64.7	70.2	64.6	57.2	

＜教科に関する調査結果＞

○小学校6年生は、国語、算数ともに全道、全国平均を上回っています。

○中学校3年生は、国語で全道、全国平均並み、数学で全道、全国平均を上回っています。

＜質問紙調査に関する結果の概要＞

- 「授業中の私語が少なく、落ち着いている」割合、「学習規律の維持をよく行った」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回りました。特に中学校は両質問とも100%となりました。各学校においては、姿勢や態度、聞き方や話し方、授業開始のチャイムを守るなどの学習規律が丁寧に指導されており、江別市の小・中学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。
- パソコンやプロジェクター、電子黒板、実物投影機などを活用した授業の実施状況は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回っています。江別市ではICTを活用した学習の推進を図るため、令和2年度から多機能型大型ディスプレイ（電子黒板）をはじめ、タブレット端末の整備、各学校のネット環境の改善等を進めてきました。
- 家庭学習の取組として、「家庭学習の課題を教職員間で共通理解を図っている」割合、「家庭での学習方法を、具体例を挙げながら教えた」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回っています。特に中学校は元年度と比べて大きな進展がみられます。

2 調査結果から見られる課題の改善のために

（令和3年度「江別市学校改善支援プラン」より）

- 全国学力・学習状況調査では、小学校6年の国語・算数、中学校3年の数学は全国平均を上回りましたが、中学校3年の国語は全国平均を下回りました。領域別では、小学校6年算数の「変化の関係」、中学校3年国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」、中学校3年数学の「数と式」が全国平均を下回りました。

NRT学力検査では、小学3年～5年の国語・算数及び中学2年の全ての教科で全国平均を上回っていますが、領域別集計では、小学校3年算数の「測定・データの活用」、小学校5年算数の「図形」が全国平均以下の正答率となっています。

新学習指導要領の全面実施に伴う「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、「カリキュラム・マネジメント」の確立による教育活動の質の向上をはじめ、今後もICT機器の効果的な活用、家

庭学習の習慣化、学習サポートの充実等を、工夫して継続する必要があります。

- 児童生徒は落ち着いて授業に臨んでいます。望ましい生活リズムの確立や家庭学習の定着に向け、学校と家庭が緊密に連携した取組を継続する必要があります。
- 自尊意識を問う設問では、小学校6年が元年度を下回っているのに対し、中学校3年は元年度を上回っています。教育活動全体を通じて、一人一人のよさや可能性を見いだし、それらを発揮できる場を設定し、自己肯定感、自己有用感を高める教育を充実させる必要があります。

新型コロナウイルス感染症のため、様々な活動制限等によると思われる影響がみられます。新しい生活様式に対応した教育活動を工夫・充実させる必要があります。

- 中学校区内の小中学校間で、学習規律や家庭学習の習慣化など、児童生徒の状況について情報を共有しています。今後は義務教育9年間で児童生徒に育成したい力(めざす子ども像)を明確にし、系統性を確保した指導の一貫性を確立するとともに、令和5年度から市内公立学校全校で導入される小中一貫教育に向けた取組を進めていく必要がある。

3 学力向上等の取組

(1) 学校改善プランの検証、作成

学校改善プランの作成は、ほとんどの学校で主幹教諭及び教務主任が中心となって作成しています。また、学力向上委員会等の特別委員会を設置していない学校がみられますが、既存の教育課程委員会や校務部会等を活用して作成しています。学校改善プランを実効あるものにするために、その学校の児童生徒の実態に応じた教育課程の編成や短期及び中・長期的な検証サイクルを活用し、継続的な学力の向上を図るよう働きかけていきます。

(2) 小中一貫教育に向けた小中連携の状況

令和5年度からの小中一貫教育全面実施に向け、どの学校も連携会議の回数を昨年度よりも増やしています。今年度は管理職に加え、主幹教諭や教務主任間の連携が密になり、それに伴い、職員の意識も高くなってきました。また、ほとんどの中学校区では、部会(分科会)を立ち上げ、全職員で小中一貫に向けた取組をはじめています。

① 具体的な内容

どの中学校区でも「めざす子ども像」の設定に取り組んでおり、今年度中に設定する学校が多く見られます。また、学校改善プランの交流、中学校教師による出前授業、学習規律・家庭学習の交流も行われています。中には、webを活用した取組(中学校教師による6年生に向けた講話)も見られました。

② 6年生の中学校体験学習

各中学校区では、小学6年生の授業体験や部活動体験を行いました。また、児童会・生徒会合同の活動(あいさつ運動)や小中学生合同の活動(清掃活動)を計画・実施している学校がみられました。

③ 学習のきまり

学習規律については、すべての小中学校で、学校全体で統一したものを作成しており、全職員の共通理解のもと、適切な指導行っています。また、小中一貫教育の実施に向け、すべての中学校区で学習規律の交流を行っています。年度当初や長期休業明けの時期だけでなく、必要に応じて繰り返し指導し、徹底するよう働きかけてきました。

(3) ICT機器の活用

ICT機器については、小中学校ともに、大型多機能ディスプレイとデジタル教科書、タブレットを中心に日常的に活用されています。タブレットについては、グーグル・クラスルームやグーグル・フォーム、ジャムボード、スカイメニューなどの利用が多く見られました。また、ICT活用のための研修をすべての小中学校で実施しており、GIGAスクールサポーターの来校する日に、毎回ミニ研修を行っている学校も見られます。

(4) 学習指導要領改訂に伴う取組

- ① 「主体的・対話的で深い学び」に関する研修をすべての小中学校で行っています。ほとんどの学校では、研究主題や研究内容に位置づけ、授業による検証を行っていました。

- ② 新型コロナウイルス感染症の影響で、「対話的学び」に直結する話し合い活動が思うようにできない状況がありますが、ICT機器を活用した意見交換やマスク＋フェイスガードの着用など、工夫して交流活動を行っていました。

- ③ 特別の教科道徳に関しては、どこの学校も授業改善が進んでおり、新しい視点での授業が定着してきています。

- ④ キャリアパスポートについては、小中で内容を統一して作成している学校が多く見られました。ヒアリングの段階では、まだ話し合いを持っていない中学校区もありましたが、今年度中にすべての中学校区で内容の統一が図られる予定です。